令和５年度　総合教育センター　研究報告書　第433号　ダイジェスト版

彩の国 埼玉県

「中学・高校における SOS を出す力を身に付ける学習プログラムの作成」 ～不登校の未然防止に向けて～（中間報告）

指導相談担当

１　研究の概要

令和４年度の埼玉県における「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、中学校の不登校生徒数は 9,715 人、高等学校（定時制を含む）では 2,804 人となっており、増加を続けている。その要因としては、「無気力・不安」が中学校では 55.4%、高校では 39.2%と最も多いと報告されている。また、中学校、高等学校における学年別新規不登校者の生徒数は中学校、高等学校ともに１年生が最も多くなっているという結果が示されている。

同調査における中学校での「学校内外の機関等で相談・指導等を受けた人数の割合」は、59.4%と全国平均とほぼ同じ割合であるが、高等学校における「学校内で養護教諭・スクールカウンセラー・相談員等に専門的な相談・指導等を受けた人数の割合」は 38.6%で、全国平均の 43.3%より約 5%低いと報告されている。また、「学校外の機関等で相談・指導を受けた人数の割合」は 10.8%で、全国平均の 19.5%の約半分といった結果であった。

以上のことから、不登校の未然防止は喫緊の課題となっている。さらに、中・高校生の不安の原因を分析し、不安や心配事があったときに相談をするなどの SOS を出す力を身に付けることも課題となっている。

本調査研究から得られた内容をもとに、中学・高校における SOS を出す力を身に付ける学習プログラムを作成し、不登校の未然防止を目指す。これにより、全ての生徒が不安を抱えることなく安心して学校生活を過ごすことができることを目的として、本研究を進めていく。

２　研究の目的

(1) 中学１年、高校１年における不安に関する生徒の実態把握のためのアンケート調査及び分析

(2) 中学・高校における SOS を出す力を身に付ける学習プログラムの作成、周知、活用啓発

３　研究の方法

(1)　中学１年生高校１年生へのアンケート調査

①調査研究協力委員の所属校計 11 校の生徒へのアンケート調査の実施

②調査結果の分析による学習プログラムの内容検討

(2) 学習プログラムの制作

①試案の作成、実施及び実施後のアンケート調査の実施

②アンケート調査の分析及び検証、制作物の完成

③学習プログラムの周知・活用啓発

４　研究の内容（アンケート調査結果と考察）

(1)　調査方法　①調査対象　中学１年生　772 名、高校１年生　1859 名

②調査時期　令和５年９月 19 日（火）～令和５年 10 月 13 日（金）

③調査項目　１学期の生活の様子や不安について、
不安への対処法、相談先について等

(2) 中学１年生のアンケート調査結果及び分析

⑪　あなたが１学期に不安だったことについて、
０（全く不安ではなかった）から１０（とても不安だった）で教えてください。

中学１年生の不安度の平均

	項目	不安度平均
1	学習	4.18
2	進路	3.79
3	友達関係	2.90
4	部活動	2.88
5	学校行事	2.54
6	先生	2.51
7	容姿(見た目)	2.33
8	性格	2.15
9	習い事・塾	1.82
１０	健康のこと	1.69
１１	恋愛	1.60
１２	性のこと	1.40
１３	家庭・家族	1.24

中学生の不安度の平均を不安が高い順に並べたものが左の表である。アンケート実施前は、学習、友達関係、先生に対して不安度が高いのではないかと予想していた。しかし、結果としては、学習、進路、友達関係の順に不安が高いことが分かった。中学１年生から進路に対して不安が大きいと感じているのは予想外であった。また、不安度を８、９、１０と答えた生徒の人数については、進路が１２２人と一番多く、やはり中学１年生は進路について不安を感じているということが分かった。小学生のころは将来の夢や将来就きたい職業について、なんとなくではあるが考えていたことが、中学生になり、３年後の高校入試、そのための通知表であったり、定期テスト対策であったりと、これから過ごす中学３年間について具体的に考えなくてはならない状況に置かれ、不安を感じているのではないかと推測する。

【クロス集計】
「④学校は楽しいですか」×「⑪あなたが１学期に不安だったことについて、０から１０で教えてください。」

学校が楽しいか

	不安度				
④学校	学習	行事	教員	進路	友人
楽しい	3.72	1.96	1.93	3.28	2.23
どちらかといえば楽しい	4.57	2.91	3.04	4.26	3.47
どちらかといえば楽しい楽しくない	5.69	5.14	4.35	5.47	5.18
楽しくない	6.20	5.27	4.40	5.40	6.20
全体	4.07	2.46	2.42	3.72	2.81

学校が楽しいか

	不安度		
④学校	健康	家族	性格
楽しい	1.32	0.83	1.59
どちらかといえば楽しい	1.99	1.60	2.57
どちらかといえば楽しい楽しくない	2.88	2.38	4.02
楽しくない	4.13	3.79	6.14
全体	1.59	1.19	2.06

学校が楽しいか

学校が楽しいかと不安度は大きく関連していることが明らかになった。これは学習、行事、教員、進路、友人、部活動などの学校に関する項目だけでなく、健康、家族、性格などの学校以外に関する項目でも同様に関連があることが分かった。生徒に「学校が楽しい」と感じさせることができれば、生徒の不安を減少させる一助になりうるのではないか。ただし、「楽しい」と感じさせるためには、どのような方法やアプローチが効果的かを考える必要がある。生徒が楽しいと感じる要因を理解し、学校環境をより魅力的にする取組が今後の調査研究において重要になると考えられる。

【クロス集計】
「⑤あなたは友達がいますか。」×
「⑪あなたが１学期に不安だったことについて、０から１０で教えてください。」

友達の有無

	不安度			
⑤友達	友人	行事	部活	教員
たくさんいる	2.29	2.09	2.60	2.16
少しいる	4.10	3.46	3.45	3.22
あまりいない	5.56	4.28	3.64	3.68
いない	5.60	4.80	5.60	5.40
全体	2.81	2.46	2.79	2.43

友達の有無

友達の有無からは、学校生活に対する不安度に大きな影響を与えていることが明らかになった。友人関係に関する不安度だけでなく、部活や行事、教員に対する不安にも大きな影響が見られた。友達をつくるためには、友達と上手にコミュニケーションを図ることが重要である。また、部活や行事、教員の不安度に対しても、コミュニケーションが関連していることから、中学入学後にエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを通して、計画的にコミュニケーション能力の育成を図ることが重要であると考える。学校として、社会性を育むための計画を立て、実施することが効果的である。

(4) 高校１年生のアンケート調査結果

⑪　あなたが１学期に不安だったことについて、
０（全く不安ではなかった）から１０（とても不安だった）で教えてください。

高校１年生の不安度の平均

	項目	不安度平均
1	学習	4.87
2	進路	4.51
3	友達関係	3.68
4	部活動	3.39
5	先生	2.98
6	容姿(見た目)	2.87
7	性格	2.62
8	学校行事	2.57
9	健康のこと	2.02
１０	恋愛	1.92
１１	家庭・家族	1.57
１２	性のこと	1.18
１３	習い事・塾	1.16

高校生の平均不安度を順位付けた結果、上位３項目は中学校時代と同様に学習、進路、友達関係であった。ただし、これらの項目の不安度は中学１年生に比べて全て 0.6 程度上昇している。従って、高校１年生は中学生時代よりも不安を感じていると言える。新しい学習環境である高等学校や、３年後の進路選択、中学校からの友達が少なく、新たな友達を作らなければならないといった要因から、高校生の不安度が増加している可能性が考えられる。

「学習」においては、新たな高校環境で学習内容が中学よりも難しくなることから、不安が高まる傾向が考えられる。

「進路」に関しては、将来の進路選択において就職するか、大学や専門学校に進学するかを自ら決定しなければならない。この見通しのつかない未来に対する不安が生じている可能性が考えられる。

「友達関係」については、小学校から中学校へ進学する際には同じ小学校の友達が多かったが、中学から高校へ進学する際は同じ高校に進学する友達が少ないことが一因となり、新たな友達をつくらなければといった要因から不安が生じている可能性がある。

【クロス集計】
「④学校は楽しいですか」×「⑪あなたが１学期に不安だったことについて、０から１０で教えてください。」

④の「学校が楽しいかと学習、行事、教員への不安度の関連性」について、学校が楽しいと感じることと学習、行事、教員への不安度が関連していることが明らかになった。学校を楽しいと感じることが、学習や行事、教員に対する不安度を軽減する可能性がある。この結果から、授業の進め方や行事の企画、教員との関係性に改善を加え、生徒たちが楽しさと充実感を得られるよう努める必要があると考えられる。

		不安度		
	④学校	学習	行事	教員
学校が楽しいか	楽しい	4.73	2.03	2.47
	どちらかといえば楽しい	4.89	2.83	3.28
	どちらかといえば楽しい楽しくない	5.62	4.03	4.24
	楽しくない	5.35	4.47	4.18
	全体	4.77	2.43	2.84

【クロス集計】
「⑤あなたは友達がいますか。」×
「⑪あなたが１学期に不安だったことについて、０から１０で教えてください。」

⑤の「友達の有無に関する結果」からは、中学１年生と同様に、学校生活における不安度に大きな影響を与えていることが明らかになった。学習や友人関係についての項目でも不安度との関連が見られるが、特に行事に対する不安度への影響が大きいことが分かった。友達が「たくさんいる」場合、不安度が 1.93 である一方で、「あまりいない」では 4.51、「いない」では 4.00 と、２倍以上の違いがあった。また、容姿に対する不安とも関連があることが明らかになった。

		不安度			
	⑤友達	学習	行事	友人	容姿
友達の有無	たくさんいる	4.75	1.93	2.86	1.65
	少しいる	4.99	3.16	4.49	2.41
	あまりいない	5.46	4.51	5.95	2.46
	いない	4.55	4.00	3.30	3.64
	全体	4.77	2.44	3.57	1.92

【クロス集計】
「⑥どのような話でもよいのですが、あなたが話をすることができる先生が学校にいますか。」×
「⑪あなたが１学期に不安だったことについて、０から１０で教えてください。」

不安度

先生 ⑥先生	学習	行事	部活	教員	進路	友人	健康	容姿	性	恋愛	性格	家族	習い事・塾
いる	4.77	2.41	3.21	2.70	4.38	3.45	1.93	2.72	1.11	1.88	2.48	1.48	1.13
いない	5.35	3.27	4.19	4.20	5.14	4.67	2.38	3.46	1.47	2.05	3.22	1.94	1.29
全体	4.77	2.44	3.28	2.84	4.41	3.57	1.91	2.75	1.11	1.83	2.52	1.48	1.09

⑥の結果からは、中学１年生の結果と同様に、話ができる先生がいるかいないかで、全ての項目において話ができる先生がいる方が不安度が低いことが示されている。やはり、教職員とのコミュニケーションが、高校１年生の不安度と大きく関わりがあることが確認された。

【クロス集計】
「⑨自分には良いところがあると思いますか」×
「⑪あなたが１学期に不安だったことについて、０から１０で教えてください。」

⑨の「自己肯定感と不安度の関係」において、中学１年生と同様に、学習よりも容姿や性格が大きく関連していることが明らかになった（表７）。容姿や性格に対してネガティブに捉えている生徒は自己肯定感が低く、逆に自己肯定感が低いから容姿や性格に対してネガティブに捉えている可能性がある。また、友人についても、自己肯定感との関連性が見られる。自己肯定感が高い生徒は友人についての不安度が低い傾向があり、これはコミュニケーションの力が影響している可能性がある。高校１年生においてはエンカウンターなどの人間関係を築くきっかけになるような取組が重要であると考えられる。

不安度

自己肯定感 ⑨自己肯定感	学習	容姿	友人	性格
ある	4.33	1.95	2.92	1.83
どちらかといえばある	5.12	3.15	3.90	2.75
どちらかといえばない	5.64	4.23	4.97	4.17
ない	5.37	4.41	4.78	4.22
全体	4.77	2.76	3.58	2.53

５　研究の成果と今後の課題

- 県内の中学校１年生、高等学校全日制、高等学校定時制の１年生生徒に対するアンケート調査を実施した。その結果、中学校６校計 772 名、高等学校５校計 1859 名の生徒から有益な回答を得ることができた。
- アンケート調査により、中学１年生および高等学校１年生の１学期における不安に関する実態を深く把握することができた。得られたデータを基に、不安と学校生活や家庭生活との関係性についても具体的に理解することができた。
- アンケート結果を踏まえ、来年度に実施する学習プログラムを着実に構築することができた。中学校１年生、高等学校１年生の１学期に対する不安へのサポートを重点的に組み込むことができた。
- 不安度の順番について、中学１年生と高校１年生の両者が学習、進路、友達関係の順番と一致していた点が明らかになった。しかし、これらの順番が同じであっても、生徒たちの発達段階や置かれている状況には差異がある。そのため、中学生と高校生それぞれに適した学習プログラムを作成する際には、その違いを十分に意識して進める必要がある。委員の先生方の意見を踏まえながら、中学生と高校生向けの学習プログラムを練り上げていくことが重要である。



研究報告書は、埼玉県立総合教育センターのホームページ（https://www.center.spec.ed.jp/）から閲覧できます。ぜひ御覧ください。